

# 国語科 1～6段階

国語科の目標（上段は学習指導要領からの目標，下段は本校での指導の形態ごとの目標）

小学部	日常生活に必要な国語を理解し，伝え合う力を養うとともに，それらを表現する能力と態度を育てる。
	日常生活に必要な国語を理解し，伝え合う力を養うとともに，それらを表現する能力と態度を身に付ける。
中学部	日常生活に必要な国語についての理解を深め，伝え合う力を高めるとともに，それらを活用する能力と態度を身を育てる。
	日常生活に必要な国語についての理解を深め，伝え合う力を高めるとともに，それらを活用する能力と態度を身に付ける。
高等部	生活に必要な国語についての理解を深め，伝え合う力を高めるとともに，それらを適切に活用する能力と態度を育てる。
	生活に必要な国語についての理解を深め，伝え合う力を高めるとともに，それらを適切に活用する能力と態度を身に付ける。

内容の構成（観点の構成）

小学部相当	1段階	聞く・話す	読む	書く	36
	2段階				36
	3段階				36
中学部相当	4段階				38
高等部相当	5段階				38
	6段階				40

国語科 1. 2. 3段階

観点 段階	聞く・話す			
	内容	指導内容	内容	指導内容
1 段階	(1)教師の話を読んだり、絵本などを読んでもらう。	○教師から名前を呼ばれたり、言葉を掛けられたときなどに応じる。	(2)教師などの話し掛けに応じ、表情、身振り、音声や簡単な言葉で表現する。	○教師や身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに対して話し手を見る。
		○写真や絵画などの中のもの名前などを読んでもらう。		○教師や身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに対して音声で模倣する。
		○絵本のほか、紙芝居やまんがなどを読んでもらう。		○教師や身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに対して返事をする。
2 段階	(1)教師や友達などの話し言葉に慣れ、簡単な説明や話し掛けが分かる。	○話し言葉、テレビ、ラジオなどの媒体を通じた音声の口調、速度などに慣れ、見たり聞いたりして、その内容を楽しむ。	(2)見聞きしたことなどを簡単な言葉で話す。	○教師や身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに対して簡単な言葉で表現する。
		○相手の話を最後まで聞く。		○見たり、聞いたり、体験したりしたことを、「○○をした。」などのように簡単な言葉で相手に伝えることができる。
		○簡単な指示や説明、話し掛けを聞いて、その指示などに合わせた行動ができる。		○自分の名前や要求などの意思を相手に伝える。
3 段階	(1)身近な人の話を聞いて、内容のあらましがわかる。	○教師や友達、身近な人などの話、テレビやビデオの中の話、言葉などを注意して聞き、大体的内容が分かる。	(2)見聞きしたことなどのあらまじや自分の気持ちなどを教師や友達と話す。	○簡単なあいさつをする。
		○話を終わりまで注意して聞いたり、分からないときは聞き返したりすることができる。		○友達と一緒に簡単なせりふのある劇などを行い話すことに慣れる。
		○簡単な指示や説明を聞き取り、そのとおりに行動できる。		○自分の気持ちや意思、希望などの大体的内容を話したり発表したりできる。
3 段階	(1)身近な人の話を聞いて、内容のあらましがわかる。	○教師や友達、身近な人などの話、テレビやビデオの中の話、言葉などを注意して聞き、大体的内容が分かる。	(2)見聞きしたことなどのあらまじや自分の気持ちなどを教師や友達と話す。	○わからないことを聞き返して会話をすることができる。
				○相手に伝わりやすいようになるところ正しい発音で話す。
				○日常のあいさつをする。
3 段階	(1)身近な人の話を聞いて、内容のあらましがわかる。	○教師や友達、身近な人などの話、テレビやビデオの中の話、言葉などを注意して聞き、大体的内容が分かる。	(2)見聞きしたことなどのあらまじや自分の気持ちなどを教師や友達と話す。	○相手に伝言をする。
				○電話での簡単な受け答えをする。
				○相手に伝言をする。

観点 段階	読む		書く	
	内容	指導内容	内容	指導内容
1 段階	(3)教師と一緒に 絵本などを楽し む。	○絵本や紙芝居、テレビなど を教師と一緒に見たり、読んで もらったりしながら楽しむ。  ○身近な事物や動物などに興 味・関心を広げる。  ○好きな絵本を自分で探して 読んでもらう。	(4)いろいろな筆 記用具を使って 書くことに親しむ。	○クレヨン、チョーク、筆、は け、鉛筆、ボールペン、水性・ 油性ペンなどでなぐり書きで あっても書くことを十分に楽し む。 ○書くときの筆記用具の持ち 方や正しい姿勢をとることがで きる。
2 段階	(3)文字などに関 心を持ち、読もうと する。	○自分の名前や身近なもの の名前の平仮名を拾い読みす る。  ○絵本やテレビ、まんがなどに 出てくるものの名称や活動を 知り、拾い読みなどをして言葉 の数を増やす。  ○日常生活で目に触れるシン ボルマークや簡単な表示など の特徴が分かり、読もうとす る。	(4)文字を書くこと に興味をもつ。	○具体物や絵カード等と単語 や文字カードのマッチングによ り人やものの名前は文字で表 せることを知る。  ○なぞり書きや模倣して書くこ とにより人やものの名前は文 字で表せることを知る。  ○平仮名の簡単な語句を見て 書き写す。  ○自分の名前や身近なもの の名前を平仮名で書く。
3 段階	(3)簡単な語句や 短い文などを正し く読む。	○実態に応じてできるだけ さんの読み物を読むことができ る。  ○やさしい物語文の登場人物 や話の前後関係をとらえる。  ○絵本ややさしい読み物、テレ ビやコンピュータ画面に出てく る促音、長音等の含まれた語 句や短い文を読む。  ○平仮名や片仮名、児童が身 近に見られる簡単な漢字を読 む。  ○「入り口」「出口」「非常口」 「立ち入り禁止」などの生活 の中で目にする簡単な表示や標 識の意味が分かる。	(4)簡単な語句や 短い文を平仮名 などで書く。	○平仮名の濁音、半濁音、長 音、よう長音などの文字や片 仮名、身近に用いる簡単な漢 字を使い、助詞を正しく使って 書くことができる。

観点 段階	聞く・話す			
	内容	指導内容	内容	指導内容
4 段階	(1)話のおよその内容を聞き取る。	<p>○日常生活の中で、教師など周りの大人の説明や家族、友達の話聞いて、その内容を大まかに理解する。</p> <p>○簡単な放送や録音を聞いてその内容の概略を聞き取る。</p> <p>○簡単なメモを取りながら聞く。</p> <p>○分からないときは聞き返す。</p> <p>○指示や説明を聞き取って行動する。</p>	(2)見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などを相手に分かるように話す。	<p>○見聞きしたことや体験したこと、自分の気持ちや意思、意見や要望、人への伝言などを、感情や状態、動作を表す言葉を使い、事柄の順序をたどって、およその用件を話すことができる。</p> <p>○学級会などで自分の意見をみんなに分かるように話す。</p> <p>○人に尋ねられたときは、はっきりと応答する。</p>
	(1)話の内容の要点を落とさないように聞き取る。	<p>○周囲の人からの指示や説明を聞いて理解する。</p> <p>○必要な場合は、メモをとって中心的な内容を正しく理解する。</p> <p>○物語、劇、放送などを聞き、あらすじが分かったり、中心的な内容を正しく聞き取ったりする。</p>	(2)目的や場に応じて要点を落とさないように話す。	<p>○相手への伝言や、電話での対応、また、ホームルーム活動や生徒会活動などの場においても、正確に必要な内容を伝えたり、話したりする。</p> <p>○相手に応じて敬語で話す。</p> <p>○物語、劇、放送などを見たり聞いたりして楽しみ、その感想を話したりする。</p>

観点 段階	読む		書く	
	内容	指導内容	内容	指導内容
4 段階	(3)簡単な語句、 文及び文章などを 正しく読む。	○年齢にふさわしいいろいろ な文章に接し、情景や心情を 読み取る。  ○学校や町、公共施設等で目 にするものの意味が分かって 行動できる。 ・校内の各室の名前 ・交通機関や乗り物の表示 ・安全や危険、指示を知らせる 標識や案内板 ・いろいろな店の看板やポス ター ・広告など。  ○生活に必要な身近なもの の使用法や簡単な料理法の説 明書、納品書、請求書、領収 書などを読む、コンピュータ画 面の電子メール等の文字を読 む。 ○やさしい物語文を読み、時 間的な順序や事柄の順序など を考え、およその内容をつか む。 ○自然や季節などの美しさを 表した詩や紀行文などにより、 情景や場面の様子などを想像 し、読むことへの意欲を高め る。 ○短い劇の脚本を読むことや 演じることを通して、事柄の流 れや登場人物の心情などを理 解する。	(4)簡単な手紙 や日記などの内 容を順序立てて 書く。	○いろいろな生活経験をし生 活に対する取り組みの中で、 文章を書く場面をつくっていく ようにする。 ・年賀状や暑中見舞い、旅行 先からの絵はがきのほか、近 況報告、簡単な礼状など。 ・体験したことの報告、連絡 ノート、飼育動物や植物の観 察日記、社会見学の記録、行 事の案内状や招待状、壁新 聞、卒業文集など。
	(3)いろいろな語 句、文及び文章を 正しく読み、内容 を読み取る。	○小説、詩、新聞、雑誌などで 中心となる語や文をとらえて、 段落相互の関係を考えて読 む。  ○叙述をもとにして場面の移り 変わりや情景を想像しながら 読む。  ○必要に応じて簡単な国語辞 典などを活用できる。	(4)手紙や日記 などを目的に応じ て正しく書く。	○年賀状や暑中見舞い、旅行 先からの絵はがき、近況報 告、あいさつ状、依頼状、礼 状、学級新聞、行事の招待状 や案内状、諸掲示、予定表な どを目的に応じて正しく書く。  ○相手や目的に応じた書式や 言葉遣いができる。  ○自分の考えや気持ちを明確 に書き表す。

国語科 5段階(2), 6段階

観点 段階	聞く		読む	
	内容	指導内容	内容	指導内容
5 段階	(1)話の内容の 要点を落とさない ように聞き取る。		(2)目的や場 に応じて要点を落 さないように話 す。	
6 段階	(1)話し手の意図 や気持ちを考えな がら、話の内容を 適切に聞き取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手の立場や意図, 気持ちを考慮しながら話を聞き取る。</li> <li>○物語や劇などを見たり聞いたりして, 場面の情景や登場人物の気持ちが分かる。</li> <li>○指示や説明を聞き取り, 適切に行動できる。</li> <li>○テレビ放送やラジオ放送などから必要な情報を得て生活に生かす。</li> </ul>	(2)自分の立場や 意図をはっきりさ せながら, 相手や 目的, 場に応じて 適切に話す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○だれに(だれと)話すのか「相手」に応じて, 適切に話したり伝えたりすることができる。</li> <li>○人の意見を聞きながら自分の考えを整理して明確に話すことができる。</li> <li>○筋道を立てて正確に必要な内容を話す。</li> <li>○自分の立場, 場や相手に応じて尊敬語や謙譲語を適切に使い分けられる。</li> <li>○電話やコンピュータ等の情報機器の活用の際しての言葉の使い方などを身に付けることができる。</li> <li>○自己紹介では, 自分の氏名などとともに出身地, 趣味, 希望などについても, 限られた時間の中で, 必要な内容を話すことができる。</li> </ul>

観点 段階	話す		書く	
	内容	指導内容	内容	指導内容
5 段階	(3)いろいろな語句、文及び文章を正しく読み、内容を読み取る。	○歴史小説、伝記、観察記録文、紀行文、旅行などの諸案内、趣味の工作や料理の作り方、広告文などを題材として取り上げ、生徒が主体的に読む活動に取り組む。	(4)手紙や日記などを目的に応じて正しく書く。	○句読点やかぎかっこなどを正しく書き表す。
		○標識や看板、広告、立札、掲示、テレビやコンピュータ画面の文字などをできるだけ正しく読み取る。		○日常生活で多く見られる漢字を扱う。
6 段階	(3)目的や意図などに応じて文章の概要や要点などを適切に読み取る。	○生活する上で必要な情報を正確に読み取って適切に行動する力を身に付ける。	(4)相手や目的に応じていろいろな文章を適切に書く。	○目的や意図に応じて自分の考えを効果的に書く。
		○図書館等の利用を一層促す		○事象と感想、意見などを区別して書くことができる。
6 段階	(3)目的や意図などに応じて文章の概要や要点などを適切に読み取る。	○興味・関心のある分野の読書に親しむことができる。 ・小説、詩、俳句、和歌、ことわざ、エッセイ、様々な趣味に関する雑誌など。	(4)相手や目的に応じていろいろな文章を適切に書く。	○目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりする。
		○目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえなが要旨をとらえたり、登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読んだりすることができる。		○経験した事柄を順序立てて、自分の意見や感想を交えながら分かりやすく書く。
6 段階	(3)目的や意図などに応じて文章の概要や要点などを適切に読み取る。	○読書によって、自分の考えを広げたり、深めたりする。	(4)相手や目的に応じていろいろな文章を適切に書く。	○相手に応じて漢字や片仮名を正しく使ったり、尊敬語や謙譲語を正しく使い分けたりして文章を書く。
		○生活で使われる用品や用具、コンピュータ等の情報機器、医薬品などの説明書を読み取り、生活の中で適切に利用する。		○自分の履歴書、病院での診察申し込み書、及び問診表、社会生活に必要な諸届けや種々の申し込み書、申請書などを目的や書式に応じて、筆記用具を使い分けるなどして正しく書く。
6 段階	(3)目的や意図などに応じて文章の概要や要点などを適切に読み取る。	○生活に必要な納品書、請求書、領収書、通知書、広報や回覧板などの意味が分かる。	(4)相手や目的に応じていろいろな文章を適切に書く。	○ファクシミリ、コンピュータ、携帯電話、電子メールなどの適切な活用を図ることができる。
		○ファクシミリ、携帯電話、電子メールなどを適切に生活に活用できる。		